

【令和6年度】

地方創生交付金事業の 効果検証

【デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)活用事業】

- ・くまもと農地GISを活用した情報共有化事業

【デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)活用事業】

- ・アフターコロナを見据えたアウトドアツーリズム振興による関係人口の創出

地方創生事業 成果検証シート

1. 事業概要 (PLAN)

事業名	くまもと農地GISを活用した情報共有化事業
総合戦略での位置付け	基本目標1: 地域の礎となる地域産業が興隆し魅力ある雇用があるまち
事業の背景・目的	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none">・近年、農業者の高齢化や慢性的な人手不足により、担い手の確保、農地の集積、耕作放棄地の増加など課題となっているが、そのひとつに土地改良施設の維持管理も問題となっている。 <p>。土地改良施設の大半は、土地改良区や水利組合等で管理し、日常の維持管理は、施設の利用者が行うため、労力と費用が、地域の農業者にとって大きな負担となっている。</p> <ul style="list-style-type: none">・現在、土地改良施設等の情報は、関係機関ごとに保管し、施設等に不具合が発生した場合、情報の共有、現地立会、対応方針等の調整を行っている。・土地改良施設において突発事故等が発生した場合、農地へのかんがい用水不足や、冠水等により、地域一体に甚大な被害を及ぼす恐れがある。・突発事故に起因する被害を未然に防止することで、地域における農家所得の安定、ひいては、我が国の安全保障に寄与する。
	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none">・本事業の実施により、土地改良区等(農業者)も閲覧可能なWeb型GIS(サーバ)で共有するシステムを構築し、関係団体が所有する土地改良施設等の情報をデータベース化・共有化することで、水管理や点検等の施設の維持管理等を適切に行える環境を整備するとともに、農業の様々な課題や施策に対応する。・施設管理者は、異常が確認された場合の緊急処置や適正な時期で補修や更新整備、災害時の迅速な対応など、施設が適切に保全される体制のなかで、農業者等の負担を軽減し、安心して営農できる環境をつくり、農村地域の持続可能な発展につなげたい。 <p>○県、市町村、土地改良区への効果</p> <ul style="list-style-type: none">・施設の状況調査、現地調査等の省力化・施設の適切な補修、更新整備を実施(施設の長寿命化)・突発事故の未然防止、緊急時の迅速な対応・営農携帯に応じた水管理の展開や効果的な施策の実施

<p>事業の概要 (R6年度)</p>	<p>近年、農業者の高齢化や慢性的な人手不足により、担い手の確保、農地の集積、耕作放棄地の増加など課題となっているが、そのひとつに、土地改良施設の維持管理も問題となっている。 このため、土地改良区等(農業者)も閲覧可能なWeb型GIS(サーバ)で共有するシステムを構築し、関係団体が所有する施設等の情報をデータベース化・共有化することで、施設の維持管理や水管理を適切に行える環境を整備し、持続可能な営農と食料の安定供給を実現する。</p> <p>※本事業の主たる申請者:熊本県 地域連携事業の校正団体:県、市町村、土地改良区、農業関係団体</p>
<p>交付金を充当する 経費内容(R6年度 計画)</p>	<p>オンラインGIS必要機能開発経費 37千円 WebGIS(サーバ)構築費 45千円</p>

2. 実施状況(DO)

<p>令和6年度実績額</p>	<p style="text-align: right;">82,000 (円) (うち交付金41,000)</p>
<p>事業実績</p>	<p>県・協議会が求めていた機能が反映されたシステムが完成し、インターネット接続が可能なサーバを構築。</p>

3. 評価(CHECK)

本事業における重要業績評価指標	重要業績評価指標 (KPI)		令和6年度	令和7年度	令和8年度			
	オンラインGISの利用団体数	目標値		50件	66件	82件		
実績値								
オンラインGISの利用件数	目標値		6件	48件	96件			
	実績値		0					
共有化した土地改良施設数	目標値		500件	1,500件	2,500件			
	実績値							
老朽化等に伴う突発事故の減	目標値		-	5%減	10%減			
	実績値		-					
土地改良施設等情報共有サービスの満足度	目標値		-	2.7ポイント	3.7ポイント			
	実績値		-					
成果・課題	【成果】	より利便性を図るためGISの開発仕様を変更したため、令和6年度はGISの開発までを完了した。						
	【課題】	令和7年度から本格的に運用を開始し、現地調査、農地状況等把握に積極的に活用していく。						

4. 今後の方向性(ACTION)

今後の取組方針	県・協議会で求めていた機能などが反映されたシステムが完成したが、当初想定していた導入時期より時間を要することとなった。今後運用していくにあたり、利用件数や利用内容の把握、アンケートの実施により機能の改善点を把握することに努める。
---------	--

地方創生事業 成果検証シート

1. 事業概要 (PLAN)

事業名	アフターコロナを見据えたアウトドアツーリズム振興による関係人口の創出【事業期間:R4～R6年度】
総合戦略での位置付け	基本目標3:地域の宝を活かした町内外の交流が盛んなまち
事業の背景・目的	<p>【背景】</p> <ul style="list-style-type: none">八代市・芦北町・氷川町の3市町は、生産量日本一を誇る八代市の冬トマトやい草、全国的にも知名度の高い氷川町の梨や芦北町のデコボンなどの優れた農産物を生産する第1次産業に加え、八代市においては製紙工場などの製造業も盛んであり、地域一帯は田園工業地域として発展してきた。しかし、全国的に進む人口減少・高齢化・生産年齢人口減少の問題は3市町にとっても共通の課題となっている。そのため、この問題に歯止めをかけるべく、八代市・氷川町・芦北町で定住自立圏共生ビジョンを策定し、それぞれの特性を活かし様々な分野で連携を行っている。当圏域には緑豊かな森林を持つ九州山地、天草諸島と九州本土に囲まれた穏やかな内海である八代海、日本三大急流の一つである球磨川を代表とする豊富な水資源など自然豊かな地域である。観光業でもそれら豊富な自然を活かした、トレッキング、ラフティング、伝統漁業などによる体験型コンテンツなどのアウトドアアクティビティが提供されている。近年、全国的にキャンプブームが到来している。当圏域には新幹線の停車駅であるJR新八代駅があり、特に福岡市、熊本市、鹿児島市といった大都市からのアクセスはきわめて良好である。また、現存のキャンプ場に加え、八代市、芦北町では、新たなキャンプ場が整備されており、2022年にオープンする予定となっている。そのため、都市圏からのキャンパー客の増加が見込める状態にある。さらに、当圏域にはなだらかな八代平野や八代海の景観を楽しめる海岸線などゆったりとしたサイクリングに適したルートがあり、また、九州山地に属する山岳地帯にはアップダウンの激しい上級者向けのルートもあり、ファミリー層から上級者まで、様々な形のサイクリングを楽しむことができる。また、2021年11月に当圏域及び近隣市町の水俣市・津奈木町を加えた5市町で、「八代及び芦北・水俣地域サイクルツーリズム推進協議会」を設立し、今後、サイクリストの誘致に向けて、道路面の整備を行う予定となっている。 <p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none">当圏域の3市町がそれぞれ策定している第2期総合戦略では、「地域資源を活かした多様な交流の実現」を目標としている。日本遺産などの歴史文化や豊富な自然、景観などの地域資源を活用した、アウトドアツーリズムを推進し、圏域をアウトドアによるブランディングを行うことで、アウトドアファン層から選ばれる地域にすると共に、初心者やファミリー層が安心して、気軽に来訪できる地域にすることで、関係人口を創出し、「地域資源を活かした多様な交流」が進んだ圏域にする。

<p>事業の概要 (R4～R6年度)</p>	<p>【1.Withコロナ・アフターコロナに対応したアウトドアツーリズムの推進】 ○キャンプ・サイクリングの2つを柱としたアウトドアファン層の誘客 ○アウトドアツーリズムをけん引する人材の育成及び新たな雇用の創出 ○JR新八代駅に、アウトドアに関する多様な機能を持ったゲートウェイ施設を建設 ○初心者やファミリー層が気軽に来遊できる手ぶらキャンプ事業の構築 ○道の駅、飲食店等へサイクルラック、自転車整備用工具等を配備</p> <p>【2.二次交通の強化と地域資源の活用について】 ○レンタサイクル事業による圏域内の二次交通の強化、既存の体験型アクティビティを活かした周遊ルート構築 ○サイクリスト向けガイドアプリ導入による圏域3市町の地域資源を活用した周遊ルートの作成、各地域の飲食店・宿泊施設などのサイクリスト受け入れ環境の整備 ○キャンプ用品の配達サービス、キャンプ用品が積載可能なレンタサイクルの配備 ○地元農業者と協力したキャンプ客層への地元食材、県産品の販売</p> <p>【3.ブランディングの強化及び関係人口創出のためのプロモーション事業】 ○圏域連携によるアウトドアアクティビティに関するプロモーション ○アウトドアファン層にフォーカスしたオンラインツアー等の開催や、観光展への出展等による情報発信の強化 ○マイクロツーリズムやワーケーションなどの反復性の高い旅行者への戦略的情報発信による関係人口の創出 ○遠方と近隣のサイクリストが同時に参加可能なサイクリングイベント、都心部と地元のビジネスマンの交流トークイベントなどの実施による、関係人口の創出</p>
<p>交付金を充当する 経費内容(R4～5年 度)</p>	<p>【令和4年度】 ※令和4年度事業については本町経費なし</p> <p>初年度はマーケティングを実施し、圏域の地域資源を活かしたアウトドアツーリズムの方向性、求められる価値や機能、実現手段について、戦略及び事業計画を策定する。</p> <p>【令和5年度】 1.Withコロナ・アフターコロナに対応したアウトドアツーリズムの推進 ○ソフト事業 ・ブランディングの強化及び関係人口創出のためのプロモーション事業 シトラス観光圏推進協議会にて周遊型サイクリングイベントや圏域のキャンプ場を活用した交流イベントの実施 負担金 679,840円</p> <p>○ハード事業 ・アウトドアツーリズム受け入れ環境整備費用 圏域の周遊性を高めるため、受け入れ環境の整備を行う。当圏域の飲食店や宿泊施設へサイクリストを受け入れるためのサイクルラック、自転車整備用の工具、案内用表示版等を購入し公園等に配備。 案内板購入費 5個×35,500円×消費税10%=195,250円 自転車用工具購入費(レンチ、エアポンプ) 1式×27,140円×消費税10%=29,854円 ・アウトドアファン誘客のためのイルミネーション展示の実施 氷川町内の施設に自然景観を活かしたイルミネーションを設置。 スポットライト購入設置費 1式×725,000円×消費税10%=797,500円</p>

2. 実施状況(DO)

令和6年度実績額	1,706,000 (円) (うち交付金853,000)
事業実績	○ソフト事業 ・キャンプ・サイクリングの2つを柱としたアウトドアファン層の誘客 シトラス観光圏推進協議会にて周遊型サイクリングイベントや圏域のキャンプ場を活用した交流イベントの実施 シトラス観光圏推進協議会負担金 706,000円

3. 評価(CHECK)

本事業における重要業績評価指標	重要業績評価指標 (KPI)	事業開始前	令和4年度	令和5年度	令和6年度(事業終了時)		
	本事業における重要業績評価指標	サイクルツーリズムによる施設訪問者数(人)	目標値		0	2,000	5,400
実績値			0	0	59	329	
キャンプ事業の利用申し込み数(件)		目標値		0	1,000	1,500	
		実績値	0	0	1449	3088	
アウトドアイベント参加者数(人)		目標値		0	200	300	
		実績値	0	0	205	1,567	
成果・課題	<p>【成果】 ○サイクリング・キャンプイベントの実施 ・シトラス観光圏推進協議会による周遊型サイクリングイベント 八代市・氷川町・芦北町の圏域内にチェックポイントを設けて、自転車を活用した周遊を促すスタンプラリーイベントを実施。 イベント名:おいしくて、きもちいいシトラスBINGOサイクルラリー八代・氷川・芦北 開催期間:令和6年10月12日～12月31日 開催場所:八代市・氷川町・芦北町に設けたチェックポイント(計28ヵ所) 参加者数:418人</p> <p>・シトラス観光圏推進協議会によるキャンプイベント 八代市・氷川町・芦北町の3市町のキャンプ場を活用したイベントを実施。 イベント名:シトラス キャンプ×マルシェ ①八代会場 開催日:令和6年11月16日 場所:遙拝八の字広場 参加者数:約250人 ②氷川会場 開催日:令和6年11月30日 場所:立神峡里地公園キャンプ場 参加者数:約450人 ③芦北会場 開催日:令和6年12月14日 場所:御立岬公園キャンプ場 参加者数:約280人</p>						
	<p>【課題】 ・イベントを実施することにより、地域資源を活かした交流人口を増やすことはできたが、関係人口の増加につながる取組みができていない。</p>						

4. 今後の方向性(ACTION)

今後の取組方針	<p>・地域資源を活かしたイベントを実施することにより、交流人口のつながっているが、圏域内への関係性をもう一步踏み込んで構築できるような取り組みが必要。さらには、将来定住人口の増加につながるような一貫性のある取り組みを実施していくことも必要となる。</p>
---------	--